

第2章 第3次中野区民地域福祉活動計画の成果と課題

1. 第3次中野区民地域福祉活動計画(いきいきプラン)での取り組み

(1)第1期実施計画の成果と課題

「中野区民地域福祉活動計画～いきいきプラン～」とは、現在の中野区における地域福祉の現状を踏まえ、地域住民及び、福祉・保健等の地域福祉に関わる関係団体や事業者が、地域福祉を支える仕組み、基盤について協議し、区民が参加して進める地域福祉活動の行動計画を策定するものです。第3次中野区民地域福祉活動計画は、第1期(2014年度～2018年度)と第2期(2019年度～2023年度)に分けて策定しました。

第1期実施計画では、中野区の地域特性である「単身世帯が多い」、「流動人口の割合が多い」、「若い世代が多い」ことに着目し、中野区における地域福祉の課題を「社会的孤立」に起因していると仮説を立て、基本目標を「社会的な孤立を生まない、人と人とがつながる地域づくりを目指す」とし、その目標達成のために、取り組みの柱となる4つの重点目標を掲げました。

第1期実施計画重点目標

- 重点目標①多様な交流の場づくりを進める
- 重点目標②幅広い層が担い手になる
- 重点目標③困った時に助け合える地域を作る
- 重点目標④解決しにくい課題にみんなで取り組む

第1期実施計画の成果として、重点目標①「多様な交流の場づくりを進める」では、多くの区民・関係機関の協力を得られ、多様な居場所(交流の場)が区内全域に広がりました。また、重点目標②「幅広い層が担い手になる」では、「地域活動担い手養成講座(地域活動応援講座)」等を通して、地域活動に興味・関心がある層を一定数増やすことができています。

しかし、地域では、居場所につながらない人の存在とその方達へのアプローチ方法に課題が残ることや、地域活動への関心の高まりを若い世代を含め多様な人に広げるとともに、実際の活動につなげていくことなど、課題は残されていました。

そのほか、重点目標③「困った時に助け合える地域を作る」では、様々な取り組みを行った結果、困った時ほど SOS を発信できない人が多く、必要な人に情報が届いていないなど、一人ひとりに対するアプローチや支援そのものの課題が浮き彫りとなりました。

(2)第2期実施計画の成果と課題

いきいきプランの基本目標でもある「社会的な孤立を生まない、人と人とがつながる地域」の実現のためには、重点目標①と②の活動を通じ、重点目標③の「困ったときに助け合える地域をつくる」ための基盤づくりを進めていましたが、第1期実施計画においては、十分な取り組みが進められませんでした。さらに、重点目標④「解決しにくい課題にみんなで取り組む」にある通り、一人ひとりの課題を「自分たちの課題」として考え、区民、関係機関、行政が主体的に活動を進めていくことをより明確に示していく事を目的に、第2期実施計画においては、第1期実施計画の重点目標を改めて検討し、4つの重点目標を2つに合体し、進化させました。

重点目標① 参加するほど楽しくなるまち NAKANO

子どもから高齢者、障害や病気を抱えている人も含め、誰もが地域や社会に参加する機会を持ち、自分らしくやりがいや充実した生活を送ることができること。住民同士が声をかけあい、困った時には協力し、必要な時には力を貸せるようなつながりができるまちを目指します。

重点目標② 多ジャンル共生でつくるまち NAKANO

中野で活動している団体や企業、住民が集まり情報交換や学びあい、お互いの強みをいかし協働することにより新たな活動を生み出す場をつくる。その場を通じて必要な人に情報を届け、地域の課題を解決するために行動することを目指します。

(3)新型コロナウイルス感染症の拡大による地域活動への影響

第2期実施計画では全く想定していなかった「新型コロナウイルス感染症」の拡大により、これまでの生活が一変し、地域活動も中止や停止を余儀なくされました。その結果、地域活動の停滞や新たな地域課題が顕在化するなど、様々な影響が出ました。当初計画していた事業は難しくなりましたが、その時の状況に合わせ、皆さんと一緒に知恵を出し合い、新たな活動を始めるなど、工夫をしてきました。

新型コロナウイルス感染症の影響により

- ① 気軽に集まりつながることができなくなった。
- ② 感染の不安から外に出なくなり、人と会わなくなった。
- ③ 地域の様々なイベントや活動がなくなり、参加する場がなくなった。
- ④ 地域のことを一緒に考えたり、話し合うことができなくなった。
- ⑤ 外出ができなくなり、体力の低下や不安を抱える人が多くなった。テレワークなどによるストレスも増加
- ⑥ 仕事が減少又は休業となり、生活困窮に陥る人が増えた。
- ⑦ SOS や困りごとが見えなくなり、社会的孤立が深刻化した。

いきいきプランの取り組み

コロナ禍での取り組み→地域活動の再生を目指して

取組み① 中野つながるフードパントリープロジェクト

- フードパントリーを通じて地域団体や民生児童委員、町会自治会との連携した取り組みができた。
- 中野区内社会福祉法人等連絡会等を通じて、フードパントリーなど地域の取り組みに協力し、課題の解決に向けた取り組みを実施することができた。

取組み② 多様な支援を地域で生み出す

- コロナ禍もオンライン等を活用した情報交換を実施した。
- 子ども食堂や無料塾、乳幼児親子など子育てや子どもに関する活動団体が増えた。